

似島ホタルの里通信

vol. 15



黄金の花吹雪
(竹林に舞うヒメボタル)

「ニノシマボタルを育てる里人の会」

ニノシマボタルを守りたい！
私たちは“ホタルを持ち出さない、持ち込まない”を合言葉に、ホタルが自然に命をつないでいけるような環境づくりに取り組んでいます。



〈表紙写真〉

撮影者：向江菊枝 撮影場所：似島ホタル池の竹林

撮影日時：2020/6/5 21:22:38~33:30

インターバル撮影 カメラ：Pentax K-1 Mark II レンズ：31mm F1.8

ISO:1600 WB:オート 三脚使用 レリース使用



2020年度 ニノシマボタルを育てる里人の会 年間活動

新型コロナウイルス感染症流行のため、活動の中止や内容の変更をせざるを得ない状況が続きました。そんな中でも、できることをしようと取り組みました。

6月1日(月) ヒメボタル観察会(日帰り)

今年度初めての活動が観察会になりました。

ホタルがたくさん飛び始めた頃には、帰りの船の時間となっていました。約50匹のヒメボタルを観察できました。



乗船の様子

日帰り観察会
はチャーター便で向かいます！

7月5日(日) 環境整備&ヘイケボタル観察会(日帰り)

ヘイケボタルの飛翔時期、昼はホタル池の環境整備を行いました。長期間手入れができておらず、植物が茂っていたので、除草作業はとてもやりがいがありました。ヒメボタルよりも飛翔時間帯が早いので、ヒメボタル観察会の時よりも多い約100匹のヘイケボタルを観察できました。



畑の手入れ



樋の修理

会員の向江菊枝さんが撮影！
とても美しいですね。表紙の
写真は、二科会写真部広島支
部に入選されました。



9月19日(土) 環境整備

サカマキガイが育つための環境づくり。似島を紹介している大学生の協力がありました。

夏の間に植物が成長し、作業は大変でしたが、みんなで力を合わせ、お昼までにはとてもきれいになりました。昼食の後は、バーベキューの企画やホタル通信の制作について話し合いをしました。



自己紹介



除草作業



畑の手入れ

試しにコンニャクイモを植えてみました！来年度の成長が楽しみです！



10月25日(日) 環境整備&バーベキュー

作業の後、ホタル池でバーベキューをしました。

感染症対策をしっかりと行いながら、里人同士の交流を深めました。あまり食べる機会のない、イノシシのお肉も堪能しました。



除草作業



火起こし



食材準備



しっかり作業をした後の
お肉は格別の美味しさ！
イノシシ肉は特に大人気
でした。

似島に住むいきもの

ヒメボタルとヘイケボタル

似島には、ヒメボタルとヘイケボタルの2種類が生息しています。

2種類を合わせてニノシマボタルと呼んでいます。



ヒメボタル

一生を陸の上で過ごす陸生種。幼虫は湿った林床に住み、小さなカタツムリやサカマキガイを食べて成長します。

似島では5～6月上旬、林内でチカ・チカ・チカ…と連続的に光ります。巻貝が住む湿った森に支えられて命をつないでいます。



ヘイケボタル

初夏から盛夏頃に水際に産み付けられた卵から^か孵化した幼虫は、水中で小さなサカマキガイを食べて成長します。

約一年後、上陸後に^{ようか}蛹化し、成虫となります。似島では5～7月に、ホタル池の上を優しく光りながらスウーッと飛び交います。



卵

紐状の卵と、真っ黒で小さいオタマジャクシが特徴です。

雨の日の作業や観察会で現れるヒキガエル。みんな作業を忘れて夢中になってしまいます。



オタマジャクシ

ヒキガエル



センニンソウ



木質のつる性植物。葉は3～7枚の小葉からなる羽状複葉。小葉は卵形だが、ときに2～3の切れ込みがある。葉のわきに、径2～3cmの白色の花を多数つける。そう果は倒卵形で、宿存する花柱が長い羽毛状になる。和名は千人草だが、意味は不明。有毒。花期：8～9月、生育地：野原、分布：日本全土（日本の野草 特装版 山と溪谷社参照）

8月中旬、似島臨海少年自然の家の手前を左折すると、左側に羽根を広げるように白い可憐な花が咲いていました。

ホタル池ってどこにあるの？



例年の活動内容

- | | |
|-----|----------------|
| 4月 | 環境整備 |
| 5月 | ヒメボタル観察会（1泊2日） |
| 6月 | ヘイケボタル観察会（日帰り） |
| 7月 | 環境整備 |
| 8月 | お休み |
| 9月 | 環境整備 |
| 10月 | 環境整備&収穫祭 |
| 11月 | 環境整備 |
| 12月 | 環境整備&忘年会 |
| 1月 | 環境整備&ホタル通信編集会議 |
| 2月 | ホタル通信編集会議 |
| 3月 | ホタル通信発行 |

★春から秋は、毎月1回、ホタルにとって大切な湿地環境を守るために整備を行っています！

★上記のイベント以外にも、似島臨海少年自然の家で開催されているイベントに参加することもあります！

※新型コロナウイルスの感染状況や、
天候により、予定を変更する場合があります。

新しい仲間募集中

ひっそりとたくましく生きるニノシマボタルをあなたも一緒に見守ってみませんか。

皆さんは、ホタルの生息地と聞くと、きっとホタルがたくさん飛んでいる光景を想像されると思います。

しかし、ニノシマボタルは数が少ないため、たくさん飛び交う光景は見られません。少ないからこそ、絶えないように温かく見守りたい。そんな気持ちで私たちは活動しています。



《お申込み・お問合せ先》

〒734-8522 広島市南区皆実町一丁目 5-44

広島市南区役所市民部地域起こし推進課「ニノシマボタルを育てる里人の会」事務局

電話 (082) 250-8935 FAX (082) 252-7179 E-mail : mi-chiiki@city.hiroshima.lg.jp